

難読フォント

65 回生 高橋光輝(博多市)

非定古古古古古

～大学入試終了直後・某日～

博多市「くう～疲れました w これにて受験終了です！」

博多市「実は、ポケッとしてたら先輩がみんな東大に行っちゃったのが始まりでした」

博多市「本当はまともに勉強したこともなかったのですが←」

博多市「以下、可愛い後輩達のみんなへのメッセージをどz」

部長「部誌書いて」

博多市「……………」

博多市「……………は？」

部長「部誌書いて」

部長「あとポスター作って、たくさん」

可愛くない。

入試本番一ヶ月前からひたすら受験生に部誌を要求し続ける部活なんてここぐらいしかないんじゃないでしょうか。なんというブラック。

んで、書くにしても何を書けばいいのか。よく考えたらデザインとかフォントとかの実用的な技術や知識って他人に教えられるほど体系付けられたものじゃないし、だいたいのはググれば済んでしまう。偉そうにノウハウを説けるほど経験を積んだわけでもない。学生だもんね。

というわけで、前回、前々回に引き続き、知ってても何の役にも立たないコアな知識をつらつらと書き連ねていくことになります。まあ、しょせん文化祭なんてお祭りですし。面白けりゃなんでもいいよね。……面白いといいな。

※「難読フォント」は一般的に使われている用語ではありません。

フントのデザイン

フォントとは、文字の外観を変化させることによって、その文字を読んだ時に与えられるイメージを様々に変化させることに他なりません。そこでは必然的に、その文字が文章・単語として読めるということが前提となっています。

ですが、その前提を受け入れないフォントがこの世には存在します。それが「難読フォント」です。

難読フォントとはその名の通り、そのまま文字として読むには難しい、あるいは知識なしには全く読むことが出来ないフォントのことを指します。このようなフォントは、文章・標識・ロゴタイプなどの普通の用途に使うのには向きません。

難読フォントが使われる目的はいろいろありますが、ほとんどは、「読めないということをイメージとして利用する」というものです。

例えば、クリアファイルやノートなどの文房具のデザインでは、開いたスペースに英語の文章が書かれていることがよくありますが、これは「読めなくてもいい文字」の典型例です。いちいちそんな文章を読む人なんていませんし、読んでもどうでもいいことしか書いてなかったり明らかな文法ミスが散見されたりするのですが、雰囲気作りには大きく役だっていることでしょう。このような文字は、言ってみれば別に英語でなくてもよく、それっぽい雰囲気さえ出せれば、極度に読みにくい文字、あるいは架空の文字なんかでも良い、ということになります。

そのため、難読フォントが持つ雰囲気は、既存の文字・書体が持つ雰囲気と大きくかけ離れていることが多いです。この雰囲気を楽しむことこそが難読フォントの持つ醍醐味であるといえるでしょう。

まだマイナーなジャンルでしかない難読フォントですが、なかなか夢が広がる分野だと僕は思っています。ここでは、そんな難読フォントを紹介していきます。

ZETUEI FONTS

難読フォントといったら、なんといっても ZETUEI FONTS なしに語ることはできません。

ZETUEI FONTS(<http://www.zetuei.com/>)はデザイナーの加納佳之さんが運営している個人サイトで、すでに十五年以上前から難読フォントを制作し続けています。メインコンテンツである「絶影書体」は、漢字とかなを揃え、複雑に直線が入り組む不思議なイメージを醸し出す素晴らしい書体に仕上がっています（フォントとしては非公開です）。

どうでしょうか。ひと目見ただけではまったく読めなかった文字が、コツがわかるとスラスラ読める不思議な感じがしませんか？

このような書体について、加納さんは以下のように述べています。

絶影書体について、加納さんは『「読めない文字に書体としての価値は無い」「普遍性と可読性こそ書体の本分」という妥当な意見をよそに、頑なな設計思想で書体を制作。それらの文字がバラバラに並んでいたとしても、模様のようにしか感じられない。しかし、そのような文字が普段見慣れた形に集合した途端これらを文字として認識し、文字列の中から読める単語を発見したり実際に読めてしまうことに驚きを感じる。模様のようなものを見る目から、機能をもった文字を読む目が変わるギリギリの境界線上にある不安定さは書体であり、同時にデジタル入力時代の手書き文字ではないだろうか。』と語り……

- [PROGETTO Recommend Books 2009-03-31 のエントリー](#)より引用

書体に対するこのようなアプローチは現在でも滅多に見ることがありませんが、非常に面白い趣があるように思います。今後もこの分野の新たな開拓があることを願います。



そのようなフォントとは対照的に、知識がないとまったく読めないようなフォントも存在します。もちろん、日本人にとってはキリル文字などで書かれている文章もこの類に属しますが、ここでは完全に創作の産物である架空文字を取り上げたいと思います。

フォントとして作られる架空文字の多くは、何らかの作品で使われたなどの出典を持っています。以下は、シャーロック・ホームズに登場する有名な架空文字「踊る人形」を元に Gutenberg Labo 様が制作したフォント「GL-DancingMen」で書かれた文章です。



「ELSIE PREPARE TO MEET THY GOD」と書かれた単純な換字式暗号で、旗は語と語の区切りを示しています。

アルトネリコにでてくるヒュムノス語のフォントも存在します。

あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、さ、し、す、せ、そ、た、ち、つ、て、と、な、に、ぬ、ね、の、ひ、ふ、ぶ、へ、ほ、ま、み、む、め、も、や、ゆ、ゆ、よ、ら、り、る、れ、ろ、わ、を、ん

もうこうなってくると字形どころか言語体系まで違ってくるので、難読フォントとしての様をなしてないようにも思えますが、以下のように英文を単純に換字してみるだけでもいい雰囲気が醸し出せます。

あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、さ、し、す、せ、そ、た、ち、つ、て、と、な、に、ぬ、ね、の、ひ、ふ、ぶ、へ、ほ、ま、み、む、め、も、や、ゆ、ゆ、よ、ら、り、る、れ、ろ、わ、を、ん
あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、さ、し、す、せ、そ、た、ち、つ、て、と、な、に、ぬ、ね、の、ひ、ふ、ぶ、へ、ほ、ま、み、む、め、も、や、ゆ、ゆ、よ、ら、り、る、れ、ろ、わ、を、ん
あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、さ、し、す、せ、そ、た、ち、つ、て、と、な、に、ぬ、ね、の、ひ、ふ、ぶ、へ、ほ、ま、み、む、め、も、や、ゆ、ゆ、よ、ら、り、る、れ、ろ、わ、を、ん
あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、さ、し、す、せ、そ、た、ち、つ、て、と、な、に、ぬ、ね、の、ひ、ふ、ぶ、へ、ほ、ま、み、む、め、も、や、ゆ、ゆ、よ、ら、り、る、れ、ろ、わ、を、ん
あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、さ、し、す、せ、そ、た、ち、つ、て、と、な、に、ぬ、ね、の、ひ、ふ、ぶ、へ、ほ、ま、み、む、め、も、や、ゆ、ゆ、よ、ら、り、る、れ、ろ、わ、を、ん
あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、さ、し、す、せ、そ、た、ち、つ、て、と、な、に、ぬ、ね、の、ひ、ふ、ぶ、へ、ほ、ま、み、む、め、も、や、ゆ、ゆ、よ、ら、り、る、れ、ろ、わ、を、ん
あ、い、う、え、お、か、き、く、け、こ、さ、し、す、せ、そ、た、ち、つ、て、と、な、に、ぬ、ね、の、ひ、ふ、ぶ、へ、ほ、ま、み、む、め、も、や、ゆ、ゆ、よ、ら、り、る、れ、ろ、わ、を、ん

アルトネリコと関係無い所で使ったらいろいろと風当たりが強い様な気がします
が・・・(汗)。

アムカエ

どうでしょうか。このような難読フォントには普段なかなか触れることがないと思いますが、暗号として使ったり、雰囲気作りに役立ったり、遠隔操作ウイルスの挑戦状に使ったやと実用的な用途もけっこう多く存在するといえるのではないのでしょうか。みなさんも難読フォントを一度使ってみたり、あるいは作ってみたりしてください。作ったフォントを公開すると(主に筆者の)喜びも大きいかと思えます。

この記事では、以下のフォントを使用させて頂きました。

- ▶ [ZETUEI FONTS](#) 様
 - Koketsumarobitsu
 - HRKT 改

- Me-canicules
- Sky Scraper
- ▶ [うみほたる](#)様
 - NKF14 Flonyard Regular
 - NKF16 El Shaddai Regular
- ▶ [Gutenberg Labo](#)様
 - GL-DancingMen
- ▶ [ヒュムノサーバー](#)様
 - Ar-Ciela v0.9
- ▶ [Puella Magi Wiki](#)様
 - MadokaMusical